

平成21年4月20日

左京区 伝統行事 ネットワーク かわらばん

第8号 発行：左京区役所区民部総務課

左京区役所では、区内に数多く守り伝えられている伝統行事を将来にわたって保存・継承するとともに、その魅力を広く発信し観光振興に役立てるため、次の2つを柱に取組を進めています。

●伝統行事の講演会の開催

「左京区内の伝統行事の保存会等によるネットワーク会議」での取組を広く発信するため、3月14日に講演会「伝統行事は『年輪』のようなもの！」を開催しました。

◆左京に息づく伝統文化の 保存・継承と観光振興

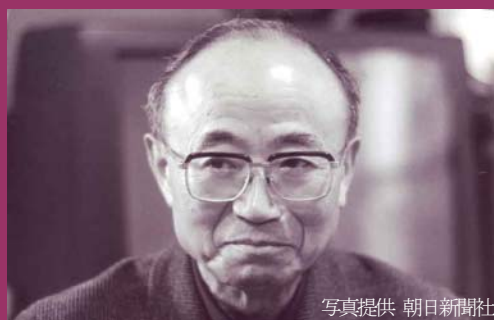
「左京伝統行事ぐるり旅～歳時記・マップ～」の配布やDVD「左京を彩る伝統絵巻」の貸出し、イベント事業等での上映、ホームページ上での動画発信を通じて、更なる観光振興を図ります。

左京区誕生80周年記念イベント
左京区内の伝統行事の保存会等によるネットワーク会議
～特別企画～

講演会 伝統行事は「年輪」 のようなもの！

日時：平成21年3月14日（土）
午後2時～3時30分
場所：京都会館 会議場

入場者数
300名



写真提供 朝日新聞社

やま おり てつ お
講師 山折哲雄氏

— 山折先生コメント —

年中行事はわれわれの歴史の「年輪」のようなものだと思います。それは流れ去った時間の厚みを整然とあらわしています。この年中行事＝年輪の考え方が、この日本列島においては千年をこえる歴史をもっていることに驚かされます。その真に意味するところを今回は考えてみようと思います。

— プロフィール —

宗教学者。1931年生まれ。岩手県出身。東北大学文学部卒業。東北大学文学部助教授、国際日本文化研究センター教授、所長を歴任。著書に「親鸞をよむ」（岩波新書）、「空海の企て」（角川選書）、「仏教民俗学」（講談社学術文庫）他。

講演内容

- 千年、二千年の樹齢を持つ縄文杉のがっしりとした幹のように、京都には伝統、文化、芸術の年輪が刻み込まれている。そして、絶えることなく受け継がれてきた伝統行事が、今日もいきいきと市民生活の中に溶け込んでいる。
- 縄文杉の太い根のように、日本の伝統行事を一番深いところでささえているのは、「日の祭り」、「火の祭り」、「魂の祭り」の3つの祭りであると考えられる。
- 8年程前に京都市内に住みはじめた頃、元日の町内の集まりで、東から昇る太陽に礼拝をする行事が行われているのを目の当たりにし、かつての「日の祭り」における太陽信仰の習わしが、京都では現在も脈々と受け継がれていることに大変感激した。

裏面へ

○祭りは、大きくは、第一幕の神様のお迎えと第二幕のおまつりした神様の前での芸能の披露で構成されているが、現在の祇園祭では第二幕にあたる山鉦巡行が注目を集める一方、第一幕の八坂神社の神様をお迎えし御旅所にお移しする儀式は、祭りの主要な部分であるのに注目されていない。

○祇園祭は八坂神社を中心とする祭りであるにも関わらず、山鉦巡行コースが御旅所の前を外れていることや、巡行順を決めるくじ取り式の時に宮司より市長が高い席に座っていることについて疑問を持っていた。ここには八坂神社の神事としての祇園祭と無形文化財としての祇園祭を別のものとして考える、政教分離の意思が働いているのではないかと思う。

○3つの祭りは、「日の祭り」と「火の祭り」を両極に、その上に「魂の祭り」がのるような形を成していると思うが、「五山の送り火」は、3つの祭りを統合したすばらしい行事であり、この行事を守るため、保存会の方々が大変な苦勞をされていることを痛感する。

○話題となっている「おくりびと」の映画を見て非常に感銘を受けたが、最近の告别式や忍ぶ会は、亡くなった方にお別れをしたり、生前の姿を思い出す場にはなっているが、そこには故人を「おくる」気持ちが欠けているように感じる。

○現実の日本社会が本質的なところで変化している中、伝統行事の形式や心を大切に保存し次世代へ継承していくためには、どのように伝統行事を捉えなおすかを真剣に考える必要がある。



質疑応答 (抜粋)

Q：東北出身の先生がおすすめる地元の伝統行事はありますか？

A：私は生まれ故郷の岩手県花巻のシシ踊りが大好きです。

Q：この世とあの世の領域について、先生はどのように考えていますか？

A：明確な境界を示すことはできませんが、京都では盆地をこの世、五山をあの世と見たてることができます。だから、五山の送り火によって浄土のある五山へ魂をお返しするのです。

講演会についての御意見、御感想 (アンケートから抜粋)

- ・伝統行事についての重みを感じました。この頃、世の中、何か心のやさしさが失われたような気がします。京都にはいろんな伝統行事があります。身近な所にも伝えていきたい心の文化があり、地域の中で守っていきたくと思っています。
- ・すばらしい御講演ありがとうございます。今、生きている大人、一人一人の意識が大きな杉の木の正しい年輪を育て守っていくのだと思います。
- ・京都の歴史の深さ、伝統の深さに改めて感心し、大切にしていかなければと思いました。そしてこれを未来につないでいくために子供達に教えていかなければと思いました。
- ・伝統行事は守られていると思っておりましたが、やはり目に見える形、見えない形で変わってしまっていることを思い知らされました。もう一度、敬虔な気持ちで考えたいと思います。
- ・本日の先生のお話の趣旨をいかし、真にすぐれたもの、美しいもの、良いもの、伝統行事を次の世代へと伝えていく責任、義務が京都にはあると思います。
- ・心あたたまるお話でした。難しい内容を大変平易にお話いただき御礼申し上げたい。次回のお話を楽しみにしています。

アンケートに御協力
ありがとうございました。